

# 福島第一原子力発電所の状況

2016年8月2日  
東京電力ホールディングス株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (8/2 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h	26.3	1.08 kPa g	A系： 0.00 vol %
		炉心スプレ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol %
2号機	淡水 注入中	給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h	31.4	4.59 kPa g	A系： 0.02 vol %
		炉心スプレ系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol %
3号機	淡水 注入中	給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h	29.1	0.29 kPa g	A系： 0.03 vol %
		炉心スプレ系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.02 vol %

## < 2. 使用済燃料プール(SFP)の状況 > (8/2 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	29.7
2号機	循環冷却システム	運転中	27.8
3号機	循環冷却システム	運転中	27.8
4号機	循環冷却システム	運転中	26.1

各号機 SFP および原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (8/2 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	停止中 <sup>*1</sup>	運転中 <sup>*1</sup>	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中 <sup>*2</sup>	ホット 試験中 <sup>*2</sup>	ホット 試験中 <sup>*2</sup>

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 \*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

## < 4. その他 >

- ・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。  
2016/2/9 陸側遮水壁の凍結に必要な工事が完了。  
2016/3/31 11:20 試験凍結において、ブライン(不凍液)循環設備の健全性の確認等ができたことから、凍結運転(第一段階)を開始。凍結運転は建屋内滞留水と建屋周辺の地下水位が逆転するリスクを低減するため、三段階に分けて実施する計画で、第一段階では1～4号機の海側全面と山側の一部を凍結することで進めていく。
- ・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。
- ・2016/8/2 13:30 頃 福島第一原子力発電所のモニタリングポストNo.7付近に設置している連続ダストモニタにおいて、放射能濃度が上昇したことを示す「高警報」(警報設定値:1.0×10<sup>-5</sup>Bq/cm<sup>3</sup>)が発生。また、「高警報」発生後、当該ダストモニタの指示値は、警報設定値以下まで低下していること、当該ダストモニタ以外の発電所構内ダストモニタおよびモニタリングポストの指示値に有意な変動がないことを確認。なお、「高警報」が発生した時刻に、1号機原子炉建屋カバー解体・がれき撤去作業、3号機原子炉建屋オペレーティングフロア上での作業、および当該ダストモニタ周辺でダストを舞いあげるような作業は行っていないことを確認。現在、当該ダストモニタの警報が発生した原因を調査中。  
<同日 13:30 現在の風向および風速>  
風向:南東(発電所構外から構内へ向かって吹いている風)  
風速:2.3m/s

- ・2016/7/28 11:15 頃、構内の雑固体廃棄物焼却設備建屋北側屋外において、軽油配管から軽油が滴下していることを、協力企業作業員が発見した。滴下した軽油は、堰の中に留まっており、滴下した範囲は約 30cm x 30cm。当社社員が現場確認を行ったところ、運転中の軽油供給ポンプ(B)出口配管安全弁上部から、にじみ程度の漏えいがあることを確認。このため、11:41、当該ポンプを停止し当該安全弁からの漏えいが停止したことを確認。14:50、漏えいした軽油について回収作業が完了。

2016/8/2 8/1、双葉消防本部に状況調査結果、原因等について説明を行い「危険物の漏えい」であると判断された。状況調査の結果、軽油配管の滴下箇所については、軽油供給ポンプ(B)出口配管安全弁上部のキャップのシール部であることを確認。また、事象発生の前日(7/27)に、当該安全弁の近傍において、軽油供給ポンプ入口配管に設置してある入口フィルタの清掃作業を行っていた。このことから、事象が発生した原因は、入口フィルタ清掃作業等において、当該安全弁上部のキャップへの接触等に伴うシール状況の変化でシール性が低下し、滴下が発生したものと推定。今後、キャップのシール部(ガスケット)を交換するとともに、当該安全弁に接触しないよう注意喚起の表示を行う。

#### **[1号機原子炉建屋カバー解体作業]**

- ・2015/5/15 6:45 ~ 5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストの値に有意な変動なし。
- 7/17 7:06 ~ 7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。
- 7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5 に全ての屋根パネルの取り外しが完了。

#### **[サブドレン他水処理施設の状況]**

- ・2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。
- 9/17 ~ 地下水のくみ上げを昼間のみの間欠運転から 24 時間連続運転に切り替え。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンク E の分析結果[採取日 7/27]について、運用目標値を満足していることを確認したことから 8/1 9:56 ~ 16:23 に海洋への排水を実施。排水量は 935 m<sup>3</sup>。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンク F の分析結果[採取日 7/28]について、運用目標値を満足していることを確認したことから 8/2 9:47 ~ 13:49 に海洋への排水を実施。排水量は 584 m<sup>3</sup>。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンク G の分析結果[採取日 7/29]について、運用目標値を満足していることを確認したことから 8/3 に海洋への排水を実施予定。

#### **[地下水バイパスの状況]**

- ・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。
- ・地下水バイパス一時貯/留タンク分析結果(Gr1)の分析結果[採取日 7/21]について、運用目標値を満足していることを確認したことから 8/2 11:05 ~ 海洋への排水を実施。

#### **[1 ~ 3号機放水路の状況]**

1 ~ 3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム 137 の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

##### **<最新のサンプリング実績>**

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### **[H4、H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]**

< H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### **[タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況]**

< 地下水観測孔・海水サンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### **[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]**

- ・地下貯水槽 No.2 の貯留水については、汚染水保有リスクを低減するため、6/1 10:05 当該地下貯水槽から多核種除去設備への移送を開始。なお、当該地下貯水槽には、約 1,400m<sup>3</sup> の汚染水を貯留しているが、本移送においては、多核種除去設備での処理状況や受入タンク側の空き容量も考慮しながら、既設ポンプによる移送が可能な水位まで、断続的に移送を実施する予定。
- ・3/1 に採取した地下貯水槽 No.1 周辺の観測孔 A11 ~ 17 の地下水を分析した結果、前回値(2/2 採取)の全ベータ放射能が ND(ND 値 22Bq/L)であったのに対し、最大で 200Bq/L に上昇していることを確認。なお、

当該観測孔は3年前に地下貯水槽からの漏えいが確認された以降、NDだったが、全ベータ放射能の上昇が確認されたことから、漏えいの可能性も含めて調査を実施していく。

<最新のサンプリング実績>

地下貯水槽周辺の観測孔全ベータ放射能が上昇した件について、8/1に採取した ~ 観測孔の水の全ベータ放射能分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。

地下貯水槽 i 南西側の漏えい検知孔水において全ベータ放射能が上昇した件について、8/1に採取した水の分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。

また地下貯水槽 北東側の漏えい検知孔水およびその他の分析結果について有意な変動は確認されていない。引き続き、地下貯水槽および周辺の観測孔について監視を継続する。

以上